

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

R6.7.29 秋田県教育委員会

## 概 観

- 平成19年度の調査開始以来、連続して概ね良好な状況にある。
  - ・小学校において、各教科の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
  - ・中学校において、国語の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っているが、数学の平均正答率は、全国の平均正答率と同程度である。
  - ・オンラインによる回答方式で実施された児童生徒質問調査及び学校質問調査の多くの質問項目において、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。
- 各教科の概ね良好な状況に加え、児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果には、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けている状況が表れている。
- このような状況は、“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”に示している本県の優れた教育環境によるものであり、学校、家庭、地域、大学等が手を携え、オール秋田で成し遂げられたものであると捉えている。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にみる秋田の優れた教育環境

- ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
- ・各学校における児童生徒一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
- ・学校と家庭、地域との連携・協働による質の高い教育力

- 県教育委員会では、今年度を含めた計16回の調査結果により、これまでの施策・事業について一定の評価ができると捉えている。特に、少人数学習推進事業、県学習状況調査、ICT事業、各学校が共同研究体制のもと実施している授業改善の取組等は、成果を上げているものと考えている。
- 今後も、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、オール秋田で「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指し、「教育立県あきた」の実現に努めていく。

## 調査結果の活用

- 各学校においては、提供された自校の結果を基に、成果と課題を明らかにし、指導の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の課題の解決に向けた取組を組織的に進めることになる。
- 県教育委員会では、検証改善委員会を立ち上げ、これまでの課題の改善状況や今年度の結果から明らかになった課題等について詳細な分析を進め、調査結果の概要を提供するなどして各学校を支援していく。
- 今後も、国と県の学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた本県独自の検証改善サイクルを更に機能させていく。具体的には、本調査で見られた課題の解決に向けて、課題改善サポート問題を作成し、各学校に提供するとともに、県学習状況調査で課題の改善状況を把握する。また、高校入試においても、思考力・判断力・表現力等を用いて解決する問題を出題するなどし、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

## 教科に関する調査の結果

### ◆概要

- 本県の平均正答率は、小学校国語、算数、中学校国語において全国平均を上回るとともに、中学校数学において全国平均と同程度となっており、概ね良好な状況である。
- 小・中学校ともに、多くの問題（小：90.0%、中：67.7%）において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 小学校では全ての問題（100%）、中学校では多くの問題（83.9%）において、無解答率が全国平均以下になっている。
- 正答率が十分ではない問題については、指導の改善・充実を図り、学習内容を定着させていく必要がある。

### ◆平均正答率 [%]

※（ ）内の数値は全国比

年度	小学校6年生		
	国語	算数	理科
R6	73 (+5)	65 (+2)	
R5	72 (+5)	65 (+2)	
R4	71 (+5)	66 (+3)	71 (+8)
R3	71 (+6)	72 (+2)	
H31 (R1)	74 (+10)	70 (+3)	

中学校3年生			
国語	数学	理科	英語
60 (+2)	53 (±0)		
74 (+4)	52 (+1)		44 (-2)
73 (+4)	54 (+3)	52 (+3)	
68 (+3)	60 (+3)		
78 (+5)	65 (+5)		57 (+1)

	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)	理科
H30	77 (+6)	61 (+6)	67 (+3)	57 (+5)	66 (+6)
H29	80 (+5)	64 (+6)	84 (+5)	50 (+4)	
H28	77 (+4)	64 (+6)	82 (+4)	52 (+5)	
H27	76.0 (+6.0)	76.4 (+11.0)	81.2 (+6.0)	51.5 (+6.5)	66.7 (+5.9)
H26	77.4 (+4.5)	67.3 (+11.8)	85.1 (+7.0)	66.2 (+8.0)	
H25	71.7 (+9.0)	59.1 (+9.7)	82.8 (+5.6)	67.1 (+8.7)	
H24	86.9 (+5.3)	63.0 (+7.4)	79.5 (+6.2)	64.0 (+5.1)	68.4 (+7.5)
H22	89.3 (+6.0)	84.8 (+7.0)	83.2 (+9.0)	59.0 (+9.7)	
H21	75.3 (+5.4)	60.4 (+9.9)	86.2 (+7.5)	63.7 (+8.9)	
H20	74.4 (+9.0)	62.9 (+12.4)	80.7 (+8.5)	58.9 (+7.3)	
H19	86.1 (+4.4)	69.0 (+7.0)	88.4 (+6.3)	68.6 (+5.0)	

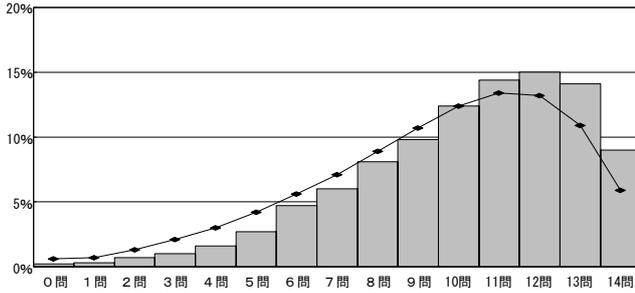
国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)	理科	
80 (+4)	66 (+5)	70 (+4)	51 (+4)	70 (+4)	
82 (+5)	78 (+6)	68 (+3)	52 (+4)		
79 (+3)	72 (+5)	67 (+5)	48 (+4)		
80.8 (+5.0)	70.7 (+4.9)	68.4 (+4.0)	46.9 (+5.3)	59.6 (+6.6)	
84.4 (+5.0)	55.8 (+4.8)	73.0 (+5.6)	65.5 (+5.7)		
81.9 (+5.5)	74.6 (+7.2)	68.9 (+5.2)	47.5 (+6.0)		
79.7 (+4.6)	70.3 (+7.0)	67.4 (+5.3)	56.7 (+7.4)	56.1 (+5.1)	
79.8 (+4.7)	71.7 (+6.4)	70.8 (+6.2)	50.0 (+6.7)		
82.3 (+5.3)	81.8 (+7.3)	68.8 (+6.1)	63.4 (+6.5)		
78.6 (+5.0)	66.8 (+6.0)	70.1 (+7.0)	54.7 (+5.5)		
85.4 (+3.8)	77.0 (+5.0)	77.5 (+5.6)	65.3 (+4.7)		

- \* 各教科の平均正答率は、当該教科における設問ごとの正答率の平均として求めた値と同じといえます。
- \* 令和2年度調査は、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し、実施されませんでした。
- \* 平成31年度（令和元年度）から、従来のA問題（知識）とB問題（活用）を一体的に問う調査問題で実施されています。
- \* 平成31年度（令和元年度）及び令和5年度の中学校英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を集計したものです。
- \* 全国比は、文部科学省が公表した全国平均正答率を四捨五入し、整数値として算出しています。
- \* 都道府県別の平均正答率は、文部科学省が平成28年度から整数値で公表しています。
- \* 平成22年度、平成24年度の平均正答率については、文部科学省から抽出調査における誤差も含めた「平均正答率の95%信頼区間」が公表されており、その区間の中央値を示しています。

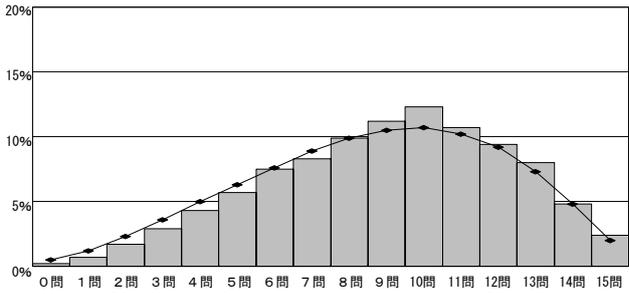
# 各教科の成果と課題

【国語】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

〈小学校〉



〈中学校〉



◇平均正答率 [%]

※ ( ) 内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の内容						問題形式			
		知識・技能			思考・判断・表現			選択式	短答式	記述式	
		(1)	(2)	(3)	A	B	C				
小学校	秋田県	73	67.7	90.2	81.1	65.7	75.2	76.6	74.3	63.2	75.0
	全国	67.7	(+3.3)	(+3.3)	(+6.5)	(+5.9)	(+6.8)	(+5.9)	(+4.4)	(+3.5)	(+10.4)

	全体	学習指導要領の内容						問題形式			
		知識・技能			思考・判断・表現			選択式	短答式	記述式	
		(1)	(2)	(3)	A	B	C				
中学校	秋田県	60	62.3	59.2	79.7	61.0	67.8	49.5	63.0	63.8	48.0
	全国	58.1	(+3.1)	(-0.4)	(+4.1)	(+2.2)	(+2.5)	(+1.6)	(+2.0)	(+2.0)	(+2.5)

(1)言語の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

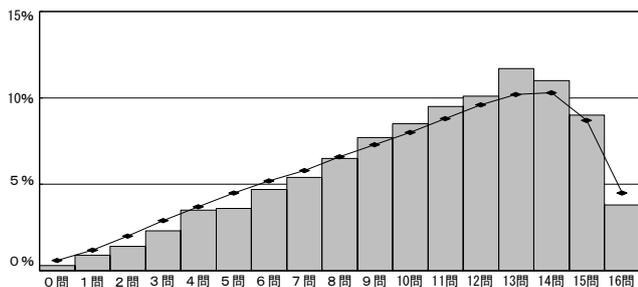
- 平均正答率は、小学校で5ポイント以上、中学校で2ポイント程度、全国平均を上回っている。
- 小学校では、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の全てにおいて5ポイント以上、全国平均を上回っている。中学校では、「A話すこと・聞くこと」及び「B書くこと」において2ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では、学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使うことに課題が見られる。
- 中学校では、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することや、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題が見られる。

## ●指導の改善が求められる問題

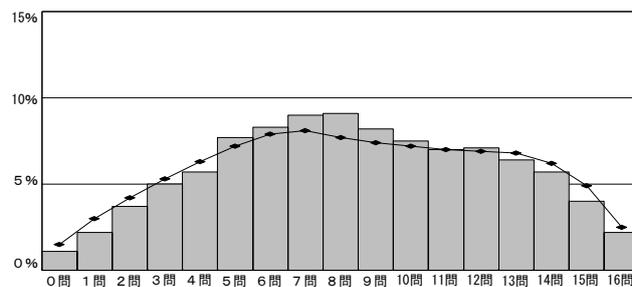
	問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	2三ア	45.3	43.4	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。 (きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。
	3一	64.6	62.3	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する。	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。
中学校	1三	42.2	44.0	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する。	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。
	2一	37.7	36.3	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する。	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる。
	2四	42.5	42.6	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する。	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる。

【算数・数学】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

〈小学校〉



〈中学校〉



◇平均正答率 [%]

※ ( ) 内の数値は全国比

	全体	学習指導要領の領域				問題形式			
		A数と計算	B図形	C変化と関係	Dデータの活用	選択式	短答式	記述式	
小学校	秋田県	65	68.7	67.8	50.3	65.1	76.6	63.1	54.6
	全国	63.4	(+2.7)	(+1.5)	(-1.4)	(+3.3)	(+1.3)	(+1.1)	(+3.6)
	全体	学習指導要領の領域				問題形式			
		A数と式	B図形	C関数	Dデータの活用	選択式	短答式	記述式	
中学校	秋田県	53	50.9	37.9	61.5	57.0	58.7	67.0	29.4
	全国	52.5	(-0.2)	(-2.4)	(+0.8)	(+1.5)	(+0.2)	(±0.0)	(+0.1)

- 平均正答率は、小学校は2ポイント程度全国平均を上回っており、中学校は全国平均と同程度である。
- 「Dデータの活用」の領域において、小学校では3ポイント以上、中学校では1ポイント以上全国平均を上回っている。
- 小学校では、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することや、速さの意味について理解することに課題が見られる。
- 中学校では、筋道を立てて考え、証明することや、事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

	問題番号	平均正答率 (%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	4 (1)	69.1	70.1	540 ÷ 0.6 を計算する。	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる。
	4 (3)	28.4	31.0	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。
	4 (4)	51.6	54.1	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。	速さの意味について理解しているかどうかをみる。
中学校	1	32.4	34.8	n を整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれ n を用いた式で表す。	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる。
	9 (1)	21.6	25.8	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ = PBであることを、三角形の合同を基にして証明する。	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。
中学校	9 (2)	24.0	26.7	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、∠AQCと∠BPCの大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ。	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる。

## 児童生徒質問調査の結果

※数値は「している」「どちらかといえば、している」等、肯定的な回答の割合（％）  
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「している」等と回答した割合（％）

### 【生活習慣】

○全体として、望ましい生活習慣が定着していると考えられる。

質問事項	小学校6年生		中学校3年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。	94.9 (85.5)	+ 1.2 (+ 2.1)	94.0 (83.6)	+ 2.8 (+ 4.5)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	93.5 (59.3)	+ 1.9 (+ 3.2)	94.4 (61.5)	+ 1.9 (+ 6.2)

### 【学習習慣】

○家庭学習に主体的に取り組むなど、望ましい学習習慣が定着していると考えられる。

質問事項	小学校6年生		中学校3年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上) 92.2   +10.6		(1時間以上) 74.2   + 9.9	
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(1時間以上) 72.3   +23.7		(2時間以上) 53.4   +17.2	

### 【豊かな人間性等】

○自己肯定感が醸成され、将来の夢や目標をもって生活している様子が見えてくる。  
○学校生活や他者と交流することに楽しさを感じている様子が見えてくる。  
○地域や社会への関心をもち、貢献したいという気持ちがある様子が見えてくる。

質問事項	小学校6年生		中学校3年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。	86.3 (45.4)	+ 2.2 (+ 2.0)	87.0 (43.7)	+ 3.7 (+ 3.3)
将来の夢や目標を持っていますか。	87.5 (67.6)	+ 5.1 (+ 7.0)	74.4 (43.8)	+ 8.1 (+ 7.7)
学校に行くのは楽しいと思いますか。	86.4 (47.9)	+ 1.6 (+ 0.7)	87.1 (48.6)	+ 3.3 (+ 5.1)
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。	81.6 (33.7)	+ 5.8 (+ 3.4)	81.6 (35.0)	+ 5.4 (+ 4.7)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	90.7 (50.9)	+ 7.2 (+14.1)	86.9 (41.6)	+10.8 (+15.2)

## 【授業等の教育活動】

- 課題解決に向けて、児童生徒が、自ら考え主体的に学習に取り組むことや、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
- 児童生徒の実態に応じた学習活動が取り入れられていることがうかがえる。
- 多くの児童生徒が、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているという意識をもっている。
- 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いたり、表現の効果を考えて文章を書いたりする学習経験を積み重ねており、児童生徒が学んだことを他の教科でも生かしながら学習を進めていることがうかがえる。
- 算数（数学）の授業では、児童生徒が有用性を感じながら、授業等で身に付けた資質・能力を普段の生活の中で活用しようとしていることがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	86.6 (34.7)	+ 4.7 (+ 5.2)	85.3 (32.6)	+ 5.0 (+ 5.4)
前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	89.3 (42.7)	+ 5.0 (+ 8.3)	85.9 (32.9)	+ 5.0 (+ 8.0)
学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。 [新規]	89.7 (48.8)	+ 3.4 (+ 7.4)	91.5 (48.2)	+ 5.4 (+11.8)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	88.2 (42.8)	+ 7.4 (+10.9)	84.7 (36.1)	+ 6.8 (+ 9.0)
国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか。 [新規]	87.9 (44.3)	+ 4.7 (+ 7.2)		
国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか。 [新規]			84.1 (36.0)	+ 7.4 (+ 7.7)
算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	96.1 (77.1)	+ 2.0 (+ 5.4)	83.5 (48.4)	+ 5.0 (+ 8.4)
算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	84.6 (50.4)	+ 6.7 (+ 8.1)	65.2 (30.4)	+ 8.0 (+ 7.0)

## 【ICTを活用した学習状況】

- ICT機器の活用頻度は全国平均を上回り、ICT機器を活用することは、様々な場面で役立つと考えていることがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	(週1回以上)		(週1回以上)	
	86.5	+ 1.0	90.0	+ 1.0
ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。 [新規]	91.6 (43.2)	+ 6.1 (+ 9.4)	84.7 (35.5)	+ 4.5 (+ 6.8)
ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。 [新規]	85.2 (40.2)	+ 6.0 (+ 6.9)	83.1 (37.2)	+ 5.4 (+ 7.1)
ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。 [新規]	91.7 (54.9)	+ 5.6 (+10.3)	91.1 (52.1)	+ 4.9 (+11.1)

## 学校質問調査の結果

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（%）  
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（%）

### 【授業等の教育活動】

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学習過程を工夫し、問題解決のプロセスを重視した探究型授業の充実を図っている。
- 児童生徒の主体的な課題解決を促すため、学習過程を見通した指導方法を工夫している。
- 家庭学習の取り組み方の指導について、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく上回っており、学校全体での具体的な指導を通して習慣化につなげている。
- 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けていると回答した中学校の割合が、小学校の割合に比べて低くなっている。
- 国語、算数（数学）の指導に関する質問事項について、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した学校の割合が全国平均を下回っている項目がある。

質問事項	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか。	98.3 (33.7)	+ 2.3 (- 7.7)	95.2 (36.2)	+ 1.0 (- 1.6)
授業では、児童生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	90.3 (20.0)	+ 2.1 (- 0.1)	88.6 (16.2)	+ 0.2 (- 4.4)
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	89.7 (17.7)	+ 2.3 (- 2.6)	88.5 (17.1)	+ 1.9 (- 2.0)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	91.4 (14.3)	+ 5.7 (- 4.3)	77.2 (10.5)	- 1.4 (- 4.3)
国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか。 [新規]	96.0 (20.6)	+ 1.1 (- 9.2)		
国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行いましたか。 [新規]			97.1 (33.3)	+ 1.3 (- 6.1)
算数（数学）の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか。	93.7 (23.4)	+ 1.4 (- 4.2)	86.6 (19.0)	- 1.9 (- 3.3)
算数（数学）の授業において、前年度までに、児童生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行いましたか。 [新規]	96.6 (38.3)	+ 1.8 (- 0.2)	97.2 (36.2)	+ 1.7 (- 6.1)
前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。	98.8 (69.1)	+ 2.7 (+21.9)	97.1 (45.7)	+ 5.2 (+12.8)
前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。 [新規]	97.1 (57.1)	+ 7.4 (+21.1)	95.2 (43.8)	+11.2 (+19.1)

## 【ICTを活用した学習状況】

- 教員がICT機器の使い方を学ぶ研修機会が設けられており、授業においてICT機器を活用することが定着してきている。
- 児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する等の様々な場面において、週1回以上使用させていると回答した学校の割合が全国平均を下回る項目があるものの、昨年度に比べてICT機器の活用が促進されている。
- 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、日常的に家庭に持ち帰って活用させる取組をしていると回答した学校の割合は、全国の平均を下回っている。

質問事項	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか。	97.1 (53.7) <R5 97.7>	+ 2.0 (- 6.8) —	94.3 (46.7) <R5 91.5>	+ 3.5 (- 5.3) —
前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。	(週1回以上) 98.2 <R5 98.9>	- 1.0 —	(週1回以上) 98.1 <R5 99.1>	- 0.4 —
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(週1回以上) 84.0 <R5 62.1>	+ 0.4 —	(週1回以上) 82.9 <R5 75.8>	+ 0.8 —
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(週1回以上) 69.7 <R5 59.9>	- 4.1 —	(週1回以上) 72.4 <R5 62.6>	+ 2.8 —
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。	(週1回以上) 81.7 <R5 65.0>	- 1.9 —	(週1回以上) 61.9 <R5 51.3>	-12.1 —
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。	(毎日～時々) 74.8 <R5 45.1>	-11.5 —	(毎日～時々) 69.6 <R5 42.0>	-14.8 —

## 【家庭や地域との関わり】

- 職場見学（職場体験活動）を行っているという回答した学校の割合が、全国の平均を上回っており、児童生徒が自分の将来の姿を意識できるようにしている。
- 家庭や地域との連携を緊密にして児童生徒を育てていることがうかがえる。

質問事項	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
(小学校) 職場見学を行っていますか。 (中学校) 前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか。	(行っている) 58.9	+15.7	(1日以上) 89.5	+13.4
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか。	98.3 (50.3)	+ 9.4 (+13.6)	87.7 (22.9)	+ 3.6 (- 5.7)

## 全国学力・学習状況調査結果の活用

### ◆概要

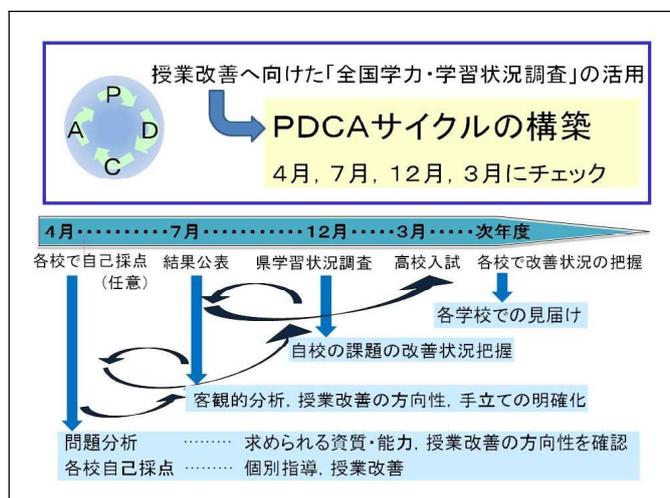
- ほとんどの学校が、全国学力・学習状況調査の自校の分析結果を全職員で共有するなどして、学校全体で教育活動を改善するために活用している。
- 全国学力・学習状況調査の結果を県独自の学力調査の結果と併せて分析し、指導の改善等に活用していることについて、肯定的な回答をした学校の割合が全国平均を上回っており、学力向上に向けた検証改善サイクルの機能を効果的に生かしている状況が見られる。
- 保護者や地域の人たちに対して自校の調査結果を公表や説明することについて、肯定的な回答をした中学校の割合が全国平均を下回っている。

### ◎学校質問調査結果より

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（%）  
 （ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（%）

質問事項	小学校		中学校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	98.9 (34.9)	+ 2.1 (+ 0.3)	96.2 (27.6)	+ 2.1 (+ 0.5)
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をどの程度行っていますか。	98.2 (37.1)	+ 5.4 (+ 5.4)	96.2 (24.8)	+ 6.9 (- 0.8)
令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）。	91.4 (24.0)	+ 1.9 (- 2.1)	81.9 (15.2)	- 1.3 (- 8.1)

○県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルを機能させることで、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に向けた各学校の取組を支援しています。



## 県教育委員会の取組

### ☆学力向上関連事業等

#### ◆これまでの主な事業等

- 少人数学習推進事業 [少人数学級、ティーム・ティーチング等による少人数授業] (H13～)
- 学習状況調査事業 (H14～)
- 教育専門監の配置 (H17～、義務教育課はH18～)
- 秋田わか杉っ子 学びの十か条 (H20～)
- 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」 (H27～)
- 算数・数学学力向上推進事業 (H17～22)
- 学力向上推進事業 (H23～)
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成 (H24)
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業 (H30、R1)

#### ◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
  - ・小学校第1学年から中学校第3学年までの全ての学年で少人数学習を実施
- 学力向上推進事業
  - (1) 学習状況調査事業
  - (2) あきたの教育力充実事業
    - ①学校訪問指導
    - ②学力向上支援Web・学習ポータルサイト
    - ③理数才能育成プロジェクト
    - ④検証改善委員会
    - ⑤オンライン・ミーティング
    - ⑥ICT活用リーダー研修
  - (3) ICTを活用した授業力向上事業
- キャリア教育実践研究事業
  - ・キャリア教育実践研究協議会
- AKITAグローバル人材育成事業
  - (1) 発信力強化プロジェクト
  - (2) グローバルコミュニケーションプロジェクト
  - (3) 指導力向上プロジェクト

## 資料 1

### 本県における全国学力・学習状況調査への参加概況(教科に関する調査)

#### ○小学校

- ・参加校数 176校（内訳：市町村立174、特別支援学校1、秋田大学教育文化学部附属1）

※すべての学校が令和6年4月18日に調査を実施

- ・参加児童数（令和6年4月18日に調査を実施した人数）

	公 立	秋大附属
国 語	5,800人	(92人)
算 数	5,797人	(92人)

※公立の学校のうち、特別支援学校の児童は1人

※秋田大学教育文化学部附属小学校については、実施予定人数

#### ○中学校

- ・参加校数 106校（内訳：県立3、市町村立101、特別支援学校1、秋田大学教育文化学部附属1）

※すべての学校が令和6年4月18日に調査を実施

- ・参加生徒数（令和6年4月18日に調査を実施した人数）

	公 立	秋大附属
国 語	6,230人	(128人)
数 学	6,229人	(128人)

※公立の学校のうち、特別支援学校の生徒は1人

※秋田大学教育文化学部附属中学校については、実施予定人数

文部科学省から県教育委員会に提供されている本資料における結果（平均正答率等）は、秋田大学教育文化学部附属小・中学校を除く、公立学校分である。

## 資料 2



### 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝 早起 朝ごはん  
生活リズムは全ての基本
- 二 元気なあいさつ 明るい返事  
規則 約束 守るわか杉
- 三 読んで 話して 書いて 高める  
「問い」を発する思考力
- 四 問題解決 子どもが主体  
授業の続きは家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ  
地域で育む子どものキャリア
- 六 学校や地域の話題で語り合い  
将来の夢 家族でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志  
みんなのでつくる未来の秋田

※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

### “秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の作成の経緯、基本的な考え方

県教育委員会では、平成27年度に“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を作成いたしました。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）の結果から、本県の学力やその基盤となる様々な要因については、全国からはもちろんのこと、海外からも注目される場所となりました。

「第3期あきたの教育振興に関する基本計画」を策定し、「教育立県あきた」の実現を目指す今、児童生徒質問調査等から見える児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の教育力等、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”として発信し、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指したいと考えております。